

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100415		
法人名	社会福祉法人陽恵福祉会		
事業所名	グループホーム陽恵苑(Aユニット)		
所在地	島根県松江市馬潟町104-1		
自己評価作成日	平成31年1月14日	評価結果市町村受理日	令和元年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成31年2月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

管理者着任4年目。利用者様に対するスタッフの気づきに常に力を入れている。現場スタッフは利用者様の訴えによく耳を傾け、発語のない方に対しても表情などをよく観察している。スタッフの気づきの力は昨年よりもさらに鋭くなり、異常の早期発見にもつながっている。また、対人援助職者のプロとしての自覚も強まってきており、管理者が発信しなくても現場で考え自ら学習会や事例検討会を実施するようになった。縦の関係の報告や相談も迅速に行われ利用者様の状態に即座に対応することができている。昨年度からの課題であった個々の関心事への支援は発展途上であり、今後の目標として「安全」「安心」「満足」の「満足」の部分に取り組んでいく。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年に続いての調査。管理者が変わって年数が経過したこともあり、介護指針に載っている目標が徐々に職員全体に行きわたり、利用者のちょっとした変化も見逃さない、変化に目を向けると言った、介護従事者に求められる資質が身に付いたことを実感する場面が多くあるとの言葉が聞かれた。気づきから出てきた問題解決に向けて、日々話し合いが行われるなど職員個々の意識が高い。ターミナル対応や複数の看取りに取り組みながらも、全体として利用者の状態は安定しており、年間を通して高い稼働率を維持している。法人全体として地域との関係作りには力を入れており、行事での行き来や研修、実習等の受け入れ、予防の為の講師派遣など、地域への貢献度にも高いものがある。今後に於いても、認知症ケアのプロとしての意識を高く、新たな目標に取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「理念に基づいた介護指針」を作成し共有している。	現管理者に変わってから、法人の理念を基に、安心、安全、満足を掲げた介護指針を作成している。現場での気づきをチームで考え実践に移すといった流れができており、良い効果が出つつあるが、評価に繋がっていないこともあり、今後の課題としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	よらこい喫茶への参加は継続的に行っている。地域行事へのお誘いも多く参加させていただいている。ボランティアのお願いにもご理解を頂いている。今年度からアニマルセラピーを始めた。	地元との交流は以前から引き続き盛んで、中学校3校から職場体験を受け入れたり、管理者は地域へ出向き認知症の勉強会の講師も行うなど貢献度は高い。アニマルセラピーを始めるなど地域資源の利用にも積極的。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度も地域の方のご要望により認知症理解の勉強会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域話題を中心に地域の中の施設とは？などの視点でざっくばらんに話し合いが行っている。	今年度は家族の参加が多くは無いが、毎回利用者の参加を得て定期に開催。行政に加え地域からは町内会長、福祉協力員、民生委員などの参加がある。利用者状況を伝えたり、地域の情報を得る良い機会となっている。	運営推進会議の意義をより高めるために、家族や関係者等、多くの参加が得られるよう検討いただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	理解が不十分である事柄についてはその都度担当者と連絡を取り確認をしている。推進会議への参加もいただいている。	運営推進会議には毎回参加があり、介護保険関連の情報を得ている。生活保護担当とは半年に1回情報を送り面談に繋げている。管理者はグループホーム部会の部長を務めたりと、多くの場で関わりがあり良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットには鍵が設置されていない。センサーマットについて定期的に評価をする場を設けていくべきと考える。身体拘束廃止指針も作成。	市の介護保険担当の指導で身体拘束廃止指針を作成しており、研修に参加したり、会議の場で取り上げている。センサーマット使用者に付いては、月1回の安全会議で評価を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体への虐待は当然のこと、言葉やしぐさによる虐待にも注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解はできている職員が多いが、活用を視野に入れて支援することは現段階では難しい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分に時間を取り説明、納得して署名をいただいている。専門用語等難しい表現はかみ砕いて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議のみではなく受け持ち職員からの発信で面談を設けることも多い。なかなか面会に来られないご家族とは電話でご本人とお話をする機会を設けている。	年1回家族会を開催し介護者同志が関わる場としている。家族関係者にはグループホーム便りを毎月、法人の通信も2か月に1回送り意見を得る機会としている。遠方の方も多いためメールや電話で様子を伝えるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度のユニットリーダー会議ではユニット内での様々な意見をリーダーが吸い上げてきてくれている。個々に管理者に相談に来る職員も多い。	定期的な面接は行っていないが必要と判断した場合や新人職員は定期で行うようにしている。管理者は会議等で出た意見を基に、当直制度の導入や地域資源を取り入れるなど、業務改善を行い職員の負担軽減に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が管理下にある職員の努力や実績、勤務状況を把握し切れているとは言えない現状である。現在の環境でも向上心を持って働くことはできる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員にはプリセプターをつけOJTを中心に育成を行っている。中堅からベテラン職員の育成はoff-JTの活用を考えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他施設の施設長や所長と意見交換できる手段を持っているが、現場の職員にはなかなか機会が作れていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前には必ずご本人と面談をさせていただき今後どのような生活を送りたいと思っておられるか確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居を希望された段階でご家族の思いや認知症の方ご本人の状態やお気持ちをお聞きし吐き出していただく場面を設定している。その後申し込みをしていただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学後、ご家族から認知症の方を取り巻く家族環境をお聞きしている。その際、本当に当苑の利用が最善なのか考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業やごみ袋作りなどご本人の興味を示されるものには積極的に取り組んでいただいている。 ご利用者様の気持ちをそそるような工夫を試行錯誤している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会時は近況報告をし、ご家族の近況も可能な限りお聞きするようにしている。ご利用者様とご家族が共に良い状態である必要があると考える。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのある方の面会は時々ある。入居者様が親しい友人に会いたいと外出支援をしたこともあった。	地域の喫茶に出向いた際には顔なじみの人との交流ができています。馴染みの美容院に家族と出かけたり、担当職員と一緒に面会をお願いするはがきを書くなど関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様が孤立されないように、職員が仲介役となって支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ入居された方の面会へ行かせていただくこともある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のケアマネジメント時には必ず「私の姿と気持ちシート」を使用し意向や生活歴を把握している。	プランの基になる情報をできるだけ集めるようにしており、生活歴や本人の思いや訴えをシートに記入するようにしている。介護計画の用紙も変更し援助方法を中心にわかりやすく作成することで、個々のケアの充実を目指している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「私の姿と気持ちシート」からアセスメントを行い、生活の継続性に配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当スタッフの気づきは格段に増えた。チームでの共有化も進みつつある。できなくなったことへ着目しがちなので、できる力への着目を促している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議とは別に入院からの退院時等状態に変化があった場合には現状に即した計画作成を心掛けている。	利用者本人と、家族関係者にもできるだけ参加してもらい担当者会議を開催している。3か月に1回モニタリングを記入し評価することで、計画の変更に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の生活の様子や発せられた言葉は少しずつ記録に残るようになってきたがPDCAサイクルの確立にはまだまだ時間がかかる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化によってグループホームが最善の居場所ではないと判断したときは認知症の方がより安心して暮らせる施設サービスへの移行も考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア様からのお声はかけていただけるようになってきた。希望の多かったアニマルセラピーを取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力指定医院への受診は原則、施設職員が付き添いを行うが、ご家族の希望にて受診の時間を通して家族だけの時間を持たれるご家庭もある。	3人の内科のドクターに加え1名の精神科のドクターの協力を得ている。入所時に説明しかかりつけ医を継続することも、変更することも可能。協力医の場合は職員が付き添い受診し日頃の様子を伝えることで指示を得るようにしている。夜間緊急時の対応も可能。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務日は毎日、ご利用者様の状態把握をしている。その他の日は訪問看護ステーションと契約しており異常発生時は対応。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へは定期的に面会に行きご本人の様子や治療の内容を入院先看護師に確認している。退院に際してはケースワーカーと連携を取り安全な早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に対する指針に基づいてご本人・ご家族・主治医・職員で方向性を一致させケアに取り組んでいる。今年度は3名の方の看取りをさせていただいた。	本人、家族関係者の希望があり、ここでの対応が可能なケースは受け入れを行っている。協力医体制も確立していることから、関係者で話し合いの機会を持ちながらの対応。喀痰吸引の研修に参加するなど、重度化に備えて準備をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応は管理者および訪問看護ステーション中心だが猶予なしと判断の場合現場職員が救急要請した例もあった。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に定期的に避難訓練等を行っている。地域住民との関係も構築。訓練を近日中に実施予定。	年2回の訓練を実施。1回は通報訓練、もう1回は地域からの参加を得て実施予定。今年度は近所の方3名を新たな支援者としてお願いしており、災害時等の協力体制の強化に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	管理者から見て職員は準言語、非言語をうまく使い温かい言葉かけ、対応ができています。	言葉かけについては方言をすべて否定することはせず、敬語にこだわらず、温かみのある声かけや状況に合わせた使い方ができるよう、職員間で共有している。新人職員の場合はコミュニケーション研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	記憶の障害や判断力の低下のみられる方に対して選択肢を多くすぎないようにし思いを引き出そうとしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	苑での生活はゆったりとしたものである。その方の興味関心のあるものに定期的に触れられるような支援に取り組み始めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	些細なことではあるが起床後に整髪への支援をしたり希望のある方にはマニキュアを塗っていただく等、興味のあることには取り組みをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備は職員が行うことが多い(外部委託の為)入居者様から(食器を)洗おうかね?と声をかけてくださることもある。下膳をされる方もおられ安全に配慮しながら行っていただいている。	外部委託の為調理に係る機会は少ないが、盛り付けや洗い物、食器拭きなどの作業を職員と一緒にしている。昼食前には軽運動や発声練習などを行い、嚥下や呑み込みがスムーズになるようにしている	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作成。 水分量は個人ごとに1日どれほど摂取されたか毎日記録が残される。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方の口腔ケアは確実にしている。 居室でご自分で磨かれる方の最終確認までは行っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	これまでの排便のあった時間を評価しただけトイレで気持ちよく排泄していただけるよう努めている。	自立の方や誘導が必要な方、定期的なオムツ交換が必要な方もあり、個々に合わせた対応としている。オムツメーカーを招き研修を実施し、より適した使い方や製品選びなどの指導を受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	確実に水分を摂取していただくことや寒い時期でも職員とご利用様が屋内を散歩する姿が見られる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状としてはご本人の入りたいときに入浴していただいているとは言いにくい。 今後の課題である。	3日に1回午前中に行っている。各階に家庭浴槽があり、重度の場合は1階の特殊浴槽での入浴ができる。移乗は2人介助でもあとは1対1でゆっくり入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	想いを表出しにくい方にはご利用者視点で物事を考え対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	これまで薬の内容にまで把握することが少なかったが受け持ち職員の責任が増したことで内服薬の内容を把握しようとする職員が増えてきた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様が胸に秘めておられる、「あれがしたい」や「これがしたい」を引き出していく努力が必要である。試行錯誤している段階である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日によってのご希望にすべてお答えはできていない。 ご利用者様と受け持ち職員が事前に計画を立てて外出することはある。	花見や海を見に行ったり、季節を感じる外出行事については計画的に実施している。誕生月には担当職員と一緒に外食などに出かけることにしているが、普段は受診の帰りにいるような場所をドライブすることで、外気に触れ精神面の刺激を得る機会としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	常時金銭を管理していただくことはしていない。 買い物の際に会計をご利用者様にさせていただくことはある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に電話をおつなぎしお話をさせていただいたり、携帯電話を所持していただいている方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	煌々と明かりを灯したり、逆に暗すぎるような環境は作らないように配慮している。 時にご利用様が共有スペースを有効に使えるよう検討し模様替えをしている。	道路に面しているものの車の騒音は気にならない。ダイルームの窓からは手入れされた日本庭園を眺めることができるため、常時季節を感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お話の合うご利用者様に同じ席で食事をとっていただく等の配慮している。 共有空間でもソファー等を使用し一人でありながら人の気配を感じられる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のお部屋作りはご家族によって大きく異なっているのが現状である。お部屋作りの重要性は契約前等にご説明させていただいている。	使い慣れた物、思い入れのある物の持ち込みを薦めている。タンスやイスやテレビを置いたり、写真を飾ったり動線に配慮して部屋づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にご本人の把握しやすい目印をつける等の配慮はしている。		